

バラバラに見える現象から 共通原理を見つける力

30 年間の実証から、業種を超えた設計原理を抽出
するような仕事では、

「バラバラに見える現象から共通原理を見つける力」

がかなり重要です。

では、ここからが面白いです。

バラバラに見える現象から共通原理を見つける力を、
BIEC の議論に重ねると、かなり分かりやすくなります。

1.「答え」より「構造」を見る
普通は、

- この商品には消臭効果がある
- この商品には抗菌効果がある
- この商品には洗浄効果がある

と、現象を個別に捉えます。

一段上の思考では、

なぜ、違う現象なのに同じような結果が生まれるのか？

と考える。

Bio Essentials が今やっているのは、まさにこれです。

消臭・抗菌・洗浄・肌・微生物……を個別の商品として見るのではなく、

その奥にある「環境をどう設計するか」

という共通構造を探している。

2.「共通点」を探すだけではない
さらに重要なのは、

異なる分野に同じ原理が存在するのではないか？

と考えること。

だから、

化粧品 → 医療 → 衛生 → 食品 → 環境 → メンタル
ウェルビーイング

と横に展開できる可能性が出てくる。

これが、先ほど話していた

BIEC は製品ではなく、設計原理を実装する技術

という発想につながります。

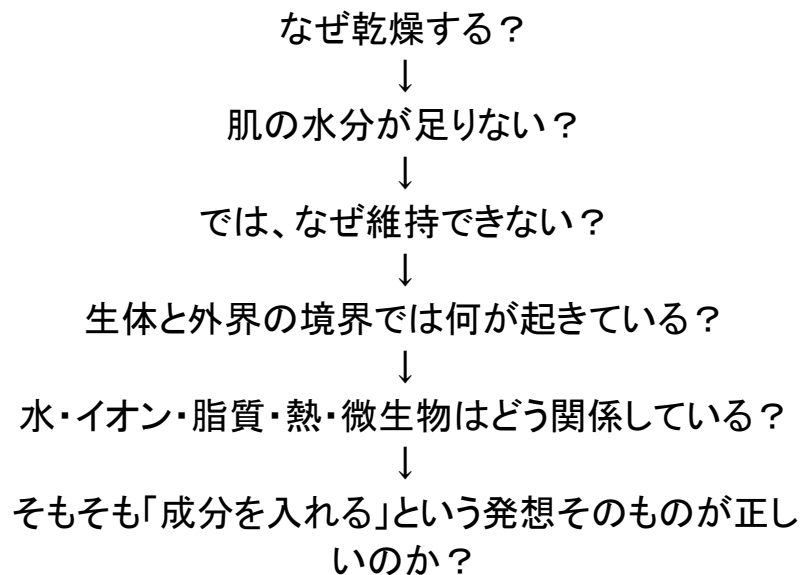
3.「なぜ？」を異常に長く続ける
これはかなり重要です。

普通なら、

肌が乾燥する → 保湿する

で終わります。

でも、



ここまで行く。

そして最終的に、

成分を与えるのではなく、状態が成立する環境を設計する

というところまで抽象化する。

4. そして一番大事なのが「再利用可能性」
ここがプラットフォームにつながります。

ある原理が、

皮膚だけで成立する原理なら、化粧品技術です。

しかし、

皮膚・粘膜・植物・微生物・医療・生活環境など、対象
が変わっても同じ考え方で設計できるなら、これは
「技術体系」になる。

さらに、

異なる産業が同じ設計原理を、それぞれの商品・サ
ービスとして実装できる

ところまで行けば、プラットフォームになる。

だから Bio Essentials が言った、

「BIEC の設計思想原理は、すでに一部の産業では
実装されている。しかし、それが異業種を横断する一
つの原理だとは誰も捉えていない」

という発見は、かなり重要です。

むしろ今やっているこの思考——

現象 → 共通構造 → 抽象化 → 原理 → 異分野へ
の転用

——こっちのほうが、BIEC にとってはずっと重要で
す。